

2012.2.27

矢島里佳

政策・メディア研究科修士課程1年

## 子ども向け伝統産業品市場開拓!「語る×体験×販売」 森基金研究成果報告書

### ○研究内容

本研究は、伝統産業の新たな市場開拓と販売方法を実践するプロジェクトを立ち上げ、その効果を実践を通じて検証するものである。具体的には、本藍染め産業を主な事例として、新たな市場セグメントとして乳幼児-両親セグメントを設定し、教育的な価値伝達が可能であるワークショップや映像を用いたプロモーション戦略を採用する。乳幼児-両親への「語る×体験×販売」という新たな販売手法の検討・実施である。筆者の経営する、株式会社和えるにて検証を行う。

### ○筆者の背景

1988年、東京都生まれ。高校3年時に、TVチャンピオン2「なでしこ礼儀作法王選手権」にて優勝。大学在学中から日本全国の魅力的な若手の職人の取材を行い日本のものづくりに魅せられ、和のコンシェルジュとして伝統を軸に活動を行う。大学卒業と同時に、日本の伝統をつなぐ株式会社和える（aeru）創設、代表取締役就任。現在は、ベビー・キッズのために伝統の匠の技を活用した商品を展開中。週刊朝日にてコラム「なでしこりかの至福の一品」を毎週連載中。著書にマナー本コミックエッセイ『その常識もしかして非常識?!自分を魅せる本当のマナー』、他2冊有り。

### ○平成23年度 研究成果

本研究を通して、本藍染め職人の矢野氏と共に商品開発を行い、本藍染め出産祝いセットの商品開発まで至った。子ども向け伝統産業品の市場開拓を実際に行うために、ベビー・キッズブランドaeruを立ち上げ、2012年3月30日より発売を開始する。発売元は筆者が代表を務める、株式会社和えるが担当する。

下記は、商品イメージ写真である。ベビー・キッズ向けの商品を販売し、商品を通して日本の伝統を語る、実際に使用していただく事で伝統に触れる体験していただきたい。





販売価格 23800円（税込24990円）

○本研究を通じた地域連携の誕生

本研究を通して徳島との連携が実現し、シンポジウムの開催や新聞記事にも本研究が取り上げられた。また、徳島の地域活性を目的としたベンチャーともつながりが出来、今後も継続的に連携をし、本プロジェクトを行っていくことが決まった。

徳島でのシンポジウムの概要

shikoku  
**459**  
WAKU WORK

開催日：2012.2.12 PM2:00~4:30 参加費無料

しこくわくわーく  
**四国で暮らす、という仕事**

30年後の四国・とくしまで、  
わくわく・楽しく働くために!

第一部 講 和

第一部 講 和



徳島の  
伝統・文化  
×  
ビジネス

**19歳**、ブランドコーディネーターが  
「和える(AERU)」で目指すこと  
～慶應女子大生の働き方～

株式会社和える / 慶應義塾大学2年  
小林 百絵 (こばやし もえ)

第二部 パネルディスカッション

**459 WAKU WORK** ディスカッション  
**地域の伝統・文化 × ビジネス**

パネリストの事業紹介と「和える」×「本藍染」の地域間、世代間を越えたプロジェクト紹介を中心に、四国・とくしまでの事業をわくわく、楽しく継続展開するためヒントや可能性、また、そのために必要かつ重要な地域企業者、社会人としての社会的ミッションや役割について意見交換します。

パネリスト



子どもたちに  
**日本の伝統をつなぐ  
学生起業家**  
株式会社 和える 代表取締役社長  
/ 慶應義塾大学大学院修士1年  
矢島 里佳 (やじま りか)



100年先の未来の為に  
**未利用資源を活かす  
木材加工メーカー**  
株式会社ビッグウィル  
近藤 佑亮 (こんどう ゆうすけ)



江戸時代からの  
**伝承を守る  
本藍染め職人**  
本藍染矢野工場  
矢野 藍秀 (やのらんしゅう)



外国人観光客に  
**四国文化を伝える  
タクシー会社**  
吉野川タクシー有限公司 専務取締役  
近藤 洋祐 (こんどう ようすけ)

コーディネーター：株式会社リーチ プロジェクトマネージャー 萩原 弘智

開催場所	徳島大学日亜会館 2F 講義室 〒770-8501 徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地	お申込み お問合せ	<b>株式会社リーチ</b> <b>TEL・FAX：088-677-5505</b> (担当者：山口 080-6529-4423) <b>Mail：info@relation-style.com</b>
申込締切	<b>2/10(金) 17:00</b> お名前・連絡先(電話番号またはメールアドレス)をご連絡下さい		
参加費	<b>無 料</b>	共催：徳島大学地域創生センター、株式会社リーチ 企画：株式会社リレイション	

本プロジェクトの取り組みが、2012年2月10日の毎日新聞に掲載された

# 「本藍染」の良さ広めたい

## 藍住の矢野さん、学生起業家と共同開発

江戸時代から伝わる伝統の「本藍染」にこだわる本藍染矢野工場（藍住町）が、慶応大大学院の学生起業家と、肌着など赤ちゃん向けの藍染め商品を共同開発した。素材にこだわり、伝統技法で1点ずつ丁寧に染め上げる。販売開始は3月末の予定。同工場の染師、矢野藍秀さん（48）は「若い感性を取り入れた商品になった。本当の藍の良さを広めたい」と話す。【山本健太】

同工場は、化学薬品法を用いる。製品は洗いのが特徴という。を一切使用しない「灰 濯」などでの色落ちが少。今回開発したのは、汗発酵建て」の伝統技。なく、丈夫で肌にも良。新生児向けの靴下、肌



学生起業家と赤ちゃん向けの藍染め商品を開発した矢野藍秀さん

藍住町矢上の「本藍染矢野工場」で

## 赤ちゃん向けの商品、来月販売へ

着、タオルの3点セット。素材はオーガニックコットンを使い、1点につき20回ほど染めの作業を繰り返す。皮膚の弱い新生児や幼児に優しいという。

開発は、同大大学院政策・メディア研究科1年、矢島里佳さん（23）の呼び掛けで昨夏から開始した。矢島さんは、日本の伝統文化や技術を伝えようと、

伝統産業品の販売などに取り組む会社「和える」（東京）を昨年3月に設立。自ら全国各地の伝統産業が残る土地を訪ね歩いている。

同工場には約3年前から何度も訪れ、矢野さんの藍に対する熱意にひかれ、同社のオリ

ジナル商品の第一段として販売が決まった。矢島さんは「本来、伝

統産業は身近にあったはずのもの。商品を通して、消えつつある伝統を子どもたちに伝えたい」と話す。

商品は6歳児までが対象。小さい頃から職人が作る「本物」に触れてもらおうとの思いも込める。主に贈答用としてホームページを中心とした販売を想定しているという。

技術を守り続ける矢野さんも「伝統産業という専門分野に若い人の考えが入ってくる」とへの期待は大きい」と矢島さんの取り組みを歓迎している。

問い合わせは電子メールで「和える」(info@a-eru.jp)へ。

○本研究によって生まれた事業内容と平成24年度の展開  
和えるは、日本の伝統をつなぐべく3つの事業を展開する。

### 1.和のコンシェルジュ事業

和えるが今まで築いてきた 知識や経験、ネットワークを活用し 和のコンシェルジュとして、みなさまのご要望にお応えします。和えるだから出来ること、ご相談ください。

### 2.和えるファミリー育成事業

○ 和えるファミリーとは

「ホンモノに触れる、ホンモノに会いに行く。」

世界193カ国ある国の中から日本を選び、生まれてきてくれた大切な子どもたち。日本のホンモノでお出迎えし、日本のホンモノで育てていきたい。ホンモノを介して、親子のコミュニケーションが生まれる。自然と自国の文化を語れる真の国際人を育てている、それが“和えるファミリー”です。

～和えるファミリーを育成するために～

「ホンモノに触れる」

・ベビーキッズブランドaeru

0-6歳児向けの商品を、全て伝統産業の職人が作っている、日本のホンモノにこだわった、ベビーキッズの感性を養うブランドです。

「ホンモノに会いに行く」

・体験感性育成旅行

小学生対象に、実際に職人さんのところへ行き、ものづくりの現場を見て、自ら体験し、ホンモノの人、モノ、自然に触れ、感性を養う家族旅行の提案。（家族旅行や小学校の自由研究の課題にもなるので、パパもママも嬉しい！）

### 3.伝統産業職人サポート事業

和えるパートナー職人さんの「困った！」を、和えるが身近なパートナーとして解決していきます。

○和えるパートナー職人とは

和えるの思いに共感し、共に伝統をつなごう！と、和えるとパートナーシップを結んでいる職人さん

○今後の展開

平成24年度も引き続き、本研究を継続し成果を出したい。今年度は、商品開発に時間をかけたので、次年度は実際に商品を販売し、子ども向け伝統産業品という新たな市場開拓を本格的に行っていきたい。認知拡大のために、キッズデザイン賞などへの応募も積極的に検討している。